



第 1616 回例会

平成 22 年 5 月 23 日(日)

「家族例会」奈良ホテル

1. 開会点鐘
2. お客様紹介 会員のご家族
3. 出席報告 会員 32 名 家族会 46 名 合計 78 名

4. 会長スピーチ 会長 花畠 重靖 君

みなさん、こんにちは。
天気は残念ながら雨ですが、
今日一日、ゆっくり楽しんでください。
親睦活動委員の皆さん、
お世話になります。私の年度も
後、1ヶ月と少しだけですが、最後
まで「明るく。楽しく。健康
で！」宜しくお願いします。



5. 幹事報告 次年度幹事 上野山 雅也 君 ○メーフィヤップ

5 月 18 日 和歌山サンライズ R C 花畠 重靖 君
○例会臨時変更のお知らせ
橋本紀ノ川 R C 6 月 1 日(火)→5 月 30 日(日)
12:30~ 大阪四季劇場
親睦家族例会

○新クラブ加盟承認

和歌山サンライズ R C

2010 年 4 月 21 日 國際ロータリーより加盟承認
5 月 18 日 創立総会
6 月 12 日 18:00~ チャーターナイト
アバローム紀の國

○2010~2011 年度 國際ロータリー第 2640 地区
ガバナー事務所開設 7 月 1 日から 下記に変更
TEL 072-224-2640
FAX 072-224-2650
E-mail : info@rid2640yoneda-g.org



2010-2011 年度のテーマ
地域をぐぐみ、大陸をつなぐ

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①実直かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか

<http://www.kainaneast-rc.jp>



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：花畠 重靖 幹事：寺下 卓 SAA：名手 広之

E-mail : info@kainaneast-rc.jp

6. 家族会

皆で！
集合写真
奈良ホテル

あいにくの
雨でしたが、
楽しかった。



7. 閉会点鐘

次回例会 第 1617 回例会：22 年 5 月 31 日(月)
海南商工会議所 4 F 12:30~
ゲスト卓話 国土交通省・近畿運輸局
和歌山運輸支局長 土井 真三 様



ROTARY WORLD MAGAZINE PRESS
ロータリーの友

被災者に希望をもたらす

2009-10 年度 RI 会長 ジョン・ケニー
親愛なるロータリアンの皆さん



1 月に大地震がハイチを襲った後、ロータリアンたちは彼らがどのようにして支援を行うことができるかについて、電話や E メールで議論を始めました。国際ロータリーがロータリーの緊急支援について報じると、ロータリアンたちはこの議論をオンライン上で始めました。当初のコメントを見れば、多くのロータリアンたちがどのようなことを考えていたかがわかります。「ロータリアンたちを何らかの援助に送り始めるとしたら、私にお手伝いできることがあるかどうか、ぜひお知らせください」
世界各地から、そして地元でも

ロータリーのウェブサイトや私たちの公式メディアでのこのような申し込みは、日を追って増えていました。ロータリアンたちはシェルターボックスやアクアボックスへの資金として何千ドルも集めたり、ロ

ータリー・ハイチ大地震救済基金に寄付したり、荒廃した国への食糧や支給品の輸送、医療従事者を派遣する手段を組織したと報告しました。

ハイチとその周辺ではロータリアンたちも大忙でした。地元ロータリアンたちは、取り残された家のない人々にシェルター・ボックスを配る手助けをしました。ロータリアンで内科医のクラウド・スレナ氏は、自宅が損害を受けていたにもかかわらず、それを臨時の病院にして 100 人もの地震で負傷した人を受け入れました。第 7020 地区（ハイチを含むカリブ海の島々）は飛行機に医療用品を積んで飛び回っていましたが、救済基金を設立し、震災後の数週間、支援のための戦略を練りました。

報道関係者が立ち去った後もロータリアンは

そして、この数週間で、そして数か月あるいは何年にもわたってでさえ、ロータリーは最大の貢献を成し遂げました。ロータリーは災害救済機関ではありません。しかし、私たちは長期にわたる復興を得意とします。報道関係の関心がなくなった後も、ロータリーはそこにいます。ハイチの事例では、17 の地元クラブとそれらを助けようとする何千ものクラブがあります。もし、バングラデイシ、ホンデュラス、インドネシア、そのほか、数え切れないほどの国々での復興活動を例に考えるならば、人々の関心が消え去り、メディアが立ち去った後も、ロータリアンたちはハイチにいるでしょう。

震災前より良いものを生み出す

今月号の「Global Outlook」をご覧になれば、多くの国々、震災後の復興を援助した国々、地域で、失われたものを元に戻すだけでなく、それと同様、より良いものを生み出したロータリーの成功例をることができます。窮地に立たされた人々への援助するロータリアンたちの情熱は、私たちの粘り強さと草の根的存在とあいまって、震災のために引き裂かれたこれらの人々の暮らしに希望をもたらし続けるでしょう。ハイチでの悲劇に対する私たちの対応で、こうした恵まれない人々に対するロータリーとしての関心事と願いが明らかになり、ロータリーが最善を尽くすこと、すなわち奉仕を行うことを証明しました。

皆さんの活動に感謝いたします。

海外へ、海外から

全世界に広がるロータリークラブ

国際ロータリーは、アメリカ・イリノイ州エバントンという、シカゴの少し北の街に本部を置く組織ですが、200 以上の国と地域に、約 3 万 3,000 のロータリークラブがあり、約 120 万人のロータリアン（ロータリークラブ会員）がいます。日本には、約 2,300 のロータリークラブがあり、約 10 万人のロータリアンがいます。きっと、皆さまが住んでいる街にもロータリークラブがあることでしょう。ロータリアンたちは、それぞれに職業をもち、職業倫理を重視し、また、その職業を通してさまざまな活動をしています。ロータリークラブでは、全世界に広がるロータリークラブ



のネットワークを利用したり、さまざまな団体と協力して、海外のさまざまな地域で活動をしています。

また、海外からさまざまな人々を迎えて、文化などを理解してもらったり、教育や技能訓練を受けてもらったりという活動もしています。

それらの中から、いくつかの活動を写真とともにご紹介します。下記の項目をクリックしてください。

アルツハイマー患者の介護者に

休息の場を提供するロータリアン

フランスのポール・ヌーヴェルに住むロータリアンのロベール・クルーさんは、数年間、アルツハイマー病を患った妻ボニーさんのために、懸命に自宅介護をしていました。



ボニーさんは、2002 年の時点で、すでに自分の夫と子どもたちを認識することができませんでした。ある日、ロベールさんが少し眠っているあいだに、彼女は家から飛び出していました。ロベールさんは彼女を家に連れ戻し、それからは家の壁を高くしたり、外出することによる危険を避けるためにドアの取っ手をはずしたりしました。「妻はよく、私のことなど知らない、家から出て行ってほしいと言ったのです」と、ロベールさんは当時を振り返ります。

妻の看病をするため、ロベールさんはロータリークラブの例会を何度も休まねばなりませんでした。悲しみに暮れ、殻に閉じこもるようになってしまったロベールさんの様子を見るに見かねて、ポール・ヌーヴェル・ロータリー・クラブの友人たちはロベールさんの力になろうとした、とクラブ会員であるジョン・クロード・ラマーさんは言いました。専門家と相談し、2004 年、同クラブはアルツハイマー患者のためのデイケア施設、「ラ・アルト・レピ（憩いの場）」を開きました。

翌年、ボニーさんは他界しましたが、その後もアルツハイマー病の患者のいる地元の家族は、毎週木曜の午後に、患者を連れて町議会の建物内にある同施設に通い続けています。そこでは訓練を受けたボランティアが数時間、患者と一緒に歌を歌ったり、ゲームや運動を行ったりすることにより、介護者は一時の休息を得ることができます。同施設は、わずかな料金で利用することができます。

「私たちの活動は、時に休息を必要とする家族のニーズに応えるものです」と、「ラ・アルト・レピ」の共同設立者であるロータリアンのジャック・ローランさんは話します。「ここに来ると患者さんが喜ぶと、ご家族の方々も言ってくれています」